

日本俳人クラブ様(東京都・杉並区) 2~3

999番傘川柳会様(千葉県・柏市) 3~4

千代田俳徒様(東京都・江戸川区) 5

投稿作品 6~10

心に残った作品 10

詠み人スクランブル(毎年行っている、お祝い事・記念日は?) 11~12

二ユースあれこれ 13

お客様の「リレーエッセイ」三ツ木宗一様 14

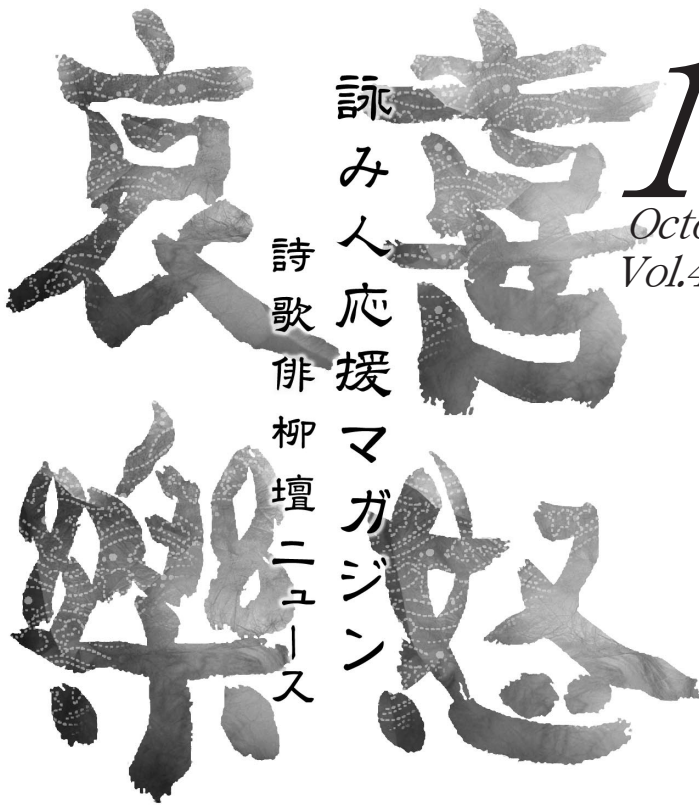
新潟ぶらり／燕喜館／考古堂書店 15

詠み人の「リレーエッセイ」俳人日原傳様 16

10
October
Vol.46

詠み人応援マガジン

詩歌俳柳壇ニュース



前号の「喜怒哀楽8月号」にて、惜しまれつつ(?)最終回を迎えた「古典を繙く」。そのあとを受けて、今回から新シリーズ「温古知新」がスタートしました!「古典の名作は多々あれど、一体どんな話だったか?」と思うこともしばしば。そんな方のためにお送りするのがこのコーナーです。さて、そんな第一回ですが、今回は名月の秋、ということと「竹取物語」をご紹介します。

昔々、竹を取り様々用途に使い暮らしていた竹取の翁とその妻の嬸がいました。翁の名は讃岐造。ある日翁は竹林に出掛けていき、光り輝いている竹を見つけます。不思議に思って近寄ってみると、中から三寸ほどの可愛らしい女の子が!翁は自分たちの子供として育てる事にしました。その後、竹の中に金を見付ける日が続き、翁の夫婦は豊かに。子供はどんどん大きくなり、三ヶ月ほどで年頃の娘へと成長しました。この世のものとは思えない程美しくなった娘は「なよ竹のかぐや姫」と名付けられました。

世の男達は、皆何とかくてかぐや姫と結婚したいと思うようになります。その姿を覗き見ようと竹取の翁の家の周りをうろつく公達は後を絶ちませんでした。最後に残ったのは好色といわれる五人の公達で、彼らは諦めず夜昼となく通いました。五人の公達は、石作皇子、車持皇子、右大臣阿倍御主人、大納言大伴御行、中納言石上麻呂。彼らが諦めそうにならないのを見て、翁がかぐや姫に「私も七十となり今日とも明日とも知れない。この世の男女は結婚するもので、お前も彼らの中から選ばないか」というも、かぐや姫は嫌がりません。しかし、「私の言う物を持って来る事が出来た人と結婚したいと思えます」と彼らに伝えてください」とかぐや姫。翁は公達を集めてかぐや姫の意思を伝えます。その内容は、石作皇子には「私の御石の鉢」、車持皇子には「蓬萊の玉の枝」、右大臣阿倍御主人には「火鼠の裘」、大納言大伴御行には「龍の首の珠」、中納言石上麻呂には「燕の子安貝」を持って来させるというものでした。どれも話にしか聞かない珍しい宝ばかりで、手に入れるのは困難です。その後、石作皇子は只の

温古知新① 竹取物語

鉢を持つていき偽者であると発覚、車持皇子は偽物をわざわざ作りませんが職人がやつてきてばれてしまいます。阿倍御主人は、それは燃えない物とされていたのに燃えて別物と判明、大伴御行は嵐に遭って諦め、石上麻呂は大炊寮の大八洲という名の大釜が据えてある小屋の屋根に上って取ろうとして腰を打ち、断命。結局誰一人として成功した者はおりませんでした。

そんな様が帝に伝わり、姫に会いたがりです。喜ぶ翁が、かぐや姫はあくまで拒否。そんな中、不意をついて訪ねてきた帝に姿を見られてしまいます。しかし、一瞬のうちに姿を消して地上の人間でない所を見せ、結局帝をも諦めさせました。それでも、帝と和歌の交換はするようになります。

帝と和歌をやり取りするようになって三年の月日が経った頃、かぐや姫は月を見て物思いに耽るようになりました。八月の満月が近付くにつれ、かぐや姫は激しく泣くようになり、翁が問うと「自分はこの国の人ではなく月の都の人であり、十五日に帰らねばなりません」といいます。それを帝が知り、翁の意を受けて、勇ましい軍勢を送りました。

そして当日、子の刻頃、空から天人が降りて来ます。が、軍勢も翁も嬸も戦意を喪失し抵抗出来なまま、かぐや姫は月へ帰っていきます。別れの時、かぐや姫は帝に不死の薬と天の羽衣、帝を慕う心を綴った文を贈りました。しかし帝は「かぐや姫の居ないこの世で不老不死を得ても意味が無い」と、それを駿河国の日本で一番高い山で焼くように命じ、それからその山は「不死の山」(後の富士山)と呼ばれ、また、その山からは常に煙が上がるようになりました。

日本最古の物語『万葉集』巻十六の第三七九一歌には、「竹取の翁」が天女を詠んだという長歌があり、この物語との関連が指摘されています。また、『今昔物語集』にも竹取物語と同様の説話(巻31「竹取の翁、女兒を見つけて養う語」)が採集されていますが、内容が若干異なっていますので、読み比べてみるのも面白いかもしれません。(古川久美子)

日本俳人クラブ

発起人代表 小島千架子さま

(「斧」主宰)

第1回浅草吟行・俳句大会

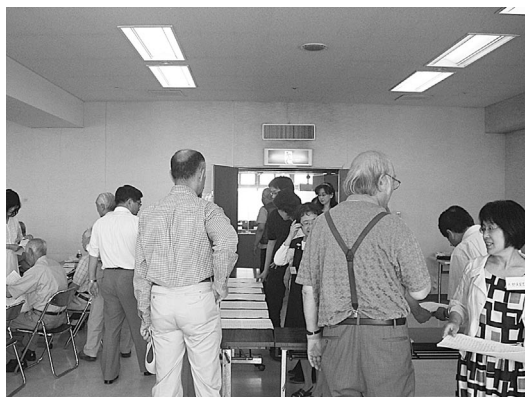
汗ばむ季節となった初夏の6月27日「日本俳人クラブ 第1回浅草吟行・俳句大会」にお邪魔して参りました。

取り重ねていく。

本日の7名の選者、雨宮抱星、一枝伸、神谷節子、小島千架子、下鉢清子、関口恭代、田中水桜(50音順・敬称略)が紹介される。

続いて、小島代表のご挨拶。

「今日は雨の予報だったが、晴れ女が多かったのか快晴。昨日の晩は明日1人もこななかったらどうしようかと寝られなかった。一銭もないところからのスタート、だから今日句稿と一緒に投句料を出してください」



▲人海戦術で句稿の準備をする



▲7名の選者の方々



▲130名ともなると圧巻です

る皆さんの顔がお金に見えた(笑)。私自身結社で勉強しているが、小さな中でこちゃこちゃやっていることに物足りなさを感じ始めていた。同じ様に感じている先生方もいて、じゃあやってみよう!とこの会が発足した。現代俳句、伝統俳句などの垣根をとっばらって、言葉の遊びの会、それくらいの緩やかな気持ちで一緒に同じところを見て、その日の作品を出し合ったらどうだろうと吟行大会を設定した。ここではまず自分が作りたい形でどんどん俳句を作ってみてください。それがまた結社に戻ってからの活力になる。一度自分のカラをとり、お隣同士仲良くなつて兄弟になつて、そういう絆を深めたい、これが私の願いです」

予想以上の570句と限られた時間。選句は最初35分間とのことだったが、とても足りず10分追加された。それでも1分に13句を読み吟味しなければならぬ勘定で頭はパンク寸前。1人5句選だから、披講者が選ばれた句を読み上げ作者が名乗るのに1句5秒で行なわなければ間に合わない。延々と披講が続く。その間、約2時間半。読み上げた句を見つけないのも一苦勞。集中していないと、勝手に聞き洩れるから油断禁物。披講が終わるとすぐに表彰式に移れる手際の良さに、裏方の苦勞がしのばれる。

大会賞は1, 2, 3席とも各2人ずつ。

1席
鞘堂に一灯欲しき茂りかな
六月の漲るものに車夫の脛

2席
梅雨晴間先ず観音をおろがみて
生ビール飲みて荷風を語りけり

3席
六区には六区の暑さ絵看板
風神と雷神のゐる炎暑かな

各選者の天地人の表彰へと続く。

雨宮抱星 選

天 浅草に男の汗が落ちて
地 木洩日を浴び緑陰の母子地藏
人 神の田の稲青あをと日さし呼ぶ

一枝 伸選

天 枇杷は実に軒先低く棲みにけり
地 濃あぢさる深く彫られし子規の句碑

人 店棚に傾いてゐる浮人形
神谷節子選

天 梅雨晴間先ず観音をおろがみて
地 日傘から嬰のはみだす浅草寺
人 観世音在す寺領や蟻地獄

小島千架子選

天 生ビール飲みて荷風を語りけり
地 ぬれせんべい一枚買ふて炎天下
人 夏服や五十六番凶と出て

下鉢清子選

天 鞘堂に一灯欲しき茂りかな
地 待乳山聖天様の蟻と蟻
人 ところてん母子地藏の子沢山

関口恭代選

天 待乳山聖天様の蟻と蟻
地 子鴉の翅を干したる扇塚
人 仲見世の参道白く灼けてをり

田中水桜選

天 迷子石江戸の温みや蟻下る
地 姉妹らし長き合掌燕の子
人 鯨尺売る浅草の麻籬簾



▲賞状と景品を授与する小島代表

「こんな
にいい句
会ができ
てとても
うれしい
から！」

途中、

とのことで、急遽「寿賞」として本日一番のご高齢89歳の方と、「功労賞」ということで一番遠方の徳島から来られた参加者も表彰された。

■「主義主張や句歴にとらわれず、地域を越えて誰もが楽しく交流することで、友と俳句の絆を深めていきたい」という日本俳人クラブ設立の想いを、観音様に願掛けする意味でも浅草で行ったという第一回吟行句会。全くの手弁当で始めたというから、その強い想いが汲み取れる。快晴すぎるくらいに天気、願いが通じた浅草という土地、130人もの人、まさに「天地人」に恵まれた幕開けとなった。「皆さんののおかげです。万歳！ありがとうございます」という小島代表の邪気のない明るさと、80歳を超え現役バリバリでどんどん新しい夢が増えていくという生き様が皆さんに勇気を与え、更なる未来を約束していると感じた。(木戸敦子)

第2回日本俳人クラブ「府中超越社句会」開催決定

日時/平成21年11月8日(日) 受付11時~12時
第一部/12時30~14時30分
結社主宰・代表6人による句会とディスカッション
第二部/15時~17時
一般参加者による句会とディスカッション
会場/府中市郷土の森博物館
参加費/1000円(投句料込み)
参加主宰/「雷魚」代表 小宅容義「斧」主宰 小島千架子「ホトギス」同人 柴原保佳「帆」主宰 関口恭代「かつしか」主宰 吉岡桂六「ひまわり」主宰 西池冬扇
申込み/往復ハガキまたはFAXにて・住所・氏名・電話を明記の上、事務局まで。
〒160-0022 千葉県木更津市八幡台3-3-8
佐藤戸折気付 日本俳人クラブ
FAX0438-36-5983
ぜひお気軽にご参加のうえ、新しいお仲間と交流ください!

999番傘川柳会

主宰 今川乱魚さま

(千葉県・柏市)

八丁堀勉強会

平成9年9月9日に設立された999番傘川柳会。9月19日、第133回を数える八丁堀勉強会にお邪魔して参りました。主宰の今川乱魚さんからメールで「論評も言いたい放題でガラの悪いメンバーですよ」との事前情報を得ていたこともあり、怖いもの見たさ半分で会場へと。



▲左より名司会のときをさん、主宰の乱魚さん、朗読の修さん

合宿は参加する?」「なくしちゃったのよ、あの紙」「いばってんじゃねーよ」「ああいうものは郵送してくれなくちゃ」。のっけから威勢のいいやり取りが耳に入る。本日16名の参加者の中には、宇都宮からの2人の参加者も。

9時半に句会開始、主宰が今日の流れを説明してくださり、まずは元NHKアナウンサー五十嵐修さんの朗読で幕開け。本は林えり子著『川柳人 川上三太郎』。なるほど、何とも聞きやすくありありと情景が目には浮かぶ。

続いて、事前の課題吟「スリッパ」から順子選14句が読み上げられる。(一部抜粋)

スリッパがラケットになる旅の宿 孝子
スリッパにゴキブリ用と書いてない 太郎
イエスマン集めスリッパ行儀よい あかり
スリッパが二つ並んだ恋景色 乱魚
スリッパを脱いで差し足忍び足 倫也
スリッパは夫婦げんかの飛び道具 太郎

◆特選

スリッパの痛みを頬が覚える 乱魚
失笑あり、苦笑あり、ほおくと
いう歓声あり。

次は即吟ということで課題「恥ずかしい」「芸能人」「友だち」「恋愛」を各3分間で作れるだけ作るという、瞬発力を鍛える課題が続く。見ている側からホイホイと

東西讚礼顔笑

いとも簡単に言葉を紡いでいく様子に驚く。回収した短冊の2センチ程の厚さに2度ビックリ。

紙面の関係上、誰もが一度は(…今でも!?) 経験する「恋愛」以外は残念ながら特選のみをご紹介。

❖ 「恥ずかしい」乱魚選

平服のことわり信じ恥をかき 信昭

❖ 「芸能人」太郎選

人生の伴侶ひばりの歌がある 倫也

❖ 「友だち」久子選

友だちが猫であつてはいけないか 閑彦

❖ 「恋愛」ときを選

あの頃は純情でしたなど今 倫也

恋しても何時か忘れる時が来る 倫也

恋愛はしたいが金が続かない 良雄

金で買う恋が寂しくないですか 閑彦

恋一つせねばあの世へ行かれない 乱魚

靴下の穴がときには恋の糸 乱魚

「こんな古いわ」

愛されるよりも愛する方をとる 修

「こういう方が現代的なんですよ」

片思い重ね満点パパを得る 藍

「よかったね」

初恋は実らぬものと諦める 藍

訳ありの二人に月は目をつぶる

「ロマンチック」

ひろたね

プロポーズ待っていたのが馬鹿でした

倫也

初デート着換えが忙し一張羅

信昭

高齢化恋愛論も進化する 孝子
改札で今日も二人の目が燃える

「作った本人が焦ってるんじゃないよ」「今は一方通行」「いいの、人の恋愛にケチつけないで」

特選 片思いのままに自分をいとおしむ 嘉枝子

「気持ちわるい」

軸吟 俺の恋は終わり遺影の妻笑う ときを

う

最後は、各人が事前に2句投句した作品からの互選。特選1句(2点)、秀句2句(1点)、逆選1句(問題ありと思う句▲1点)という得点方法。ここには主宰の「容赦のない厳しい評、酷評こそ最高の友情である。逆選句の裏側には必ず秀句の芽がある。秀句の裏側には必ず深い陥し穴がある。評は真実に近づく近道である」との想いが反映されている。

9点 未来踏む素足突き出す乳母車 友康

むっちりした手、幸せと未来が一杯詰まっている。この子の未来が幸せだといいなーと思う／よく見かける光景を素直に詠んでいる。

4点 本棚に己の恥部が並んでる 倫也

昔はこんな本を読んでいた、若かったな、と今見ると恥ずかしいという照れ／頭の中を見られていたみたいで恥ずかしい／恥部は言い過ぎ？／男が読むと、あつちの方かと思う／思わないわよ／並んでいる本がその人の全てだということ…本日話題を多く集めた中の一句。「恥部」の解釈が各人各様。

4点 真相を暴く切ない虫メガネ ときを

4点 暇になる一番怖い坂と知る 美和

4点 一つづつ鏡外れてゆくお酒 順子

ピッタリ12時に句会が終ると近くのお蕎麦屋さんに会場を移し、今日の反省会! 「いやあーこ

こ暑いわね」「何枚か脱げば?」「下から脱いでくれた方がいい」と常に楽しいな会話が聞こえる。

ビールが来て、おつまみが来て、日本酒が来て、締めのお蕎麦が来て、飲むほどに酔うほどに更に饒舌になって…。句会も楽し、句会后もまた楽し。止む無く会場を後にしたが、その後も喫茶店に移動し反省会!は続けられたとのこと。宇都宮から参加されるのもわかる、それはそれは楽しい句会でした。

「ユーモア川柳乱魚句集」「癌と闘うユーモア川柳乱魚句集」ほか著書も多数ある主宰の今川さんは、抗がん剤を打ちながらも翌日は自宅でもた違うメンバーの句会を催すという活躍ぶり。ご自身のブログ「乱魚川柳 八丁堀」で検索)にもこの句会の模様がすぐに更新され、句稿もすぐにまとめて送ってくださいと、そのスピードに感服至極。何を言っても後腐れのない、懐の広い会はまさに「爆笑劇場」。「笑い」によつて活性化されるといふがん細胞の殺し屋「ナチュラルキラー細胞」を増やすべく、ますます楽しい句会を開いてお元気になれください。(木戸敦子)



▲今回から新しい場所「八丁堀区民館」にて



▲これがまた明日からの活力源!

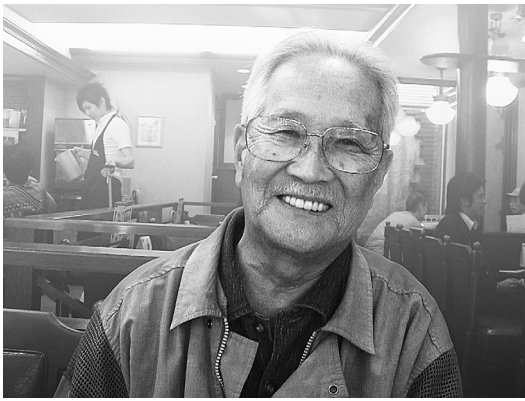
千代田俳徒さま

(東京都・江戸川区)

昨年11月に「三百句(1)」を出版し、現在「三百句(2) 粥柱」を制作中の千代田俳徒さまにお話を聞きしました。

■俳句を始めたきっかけは

一言で言えば、日本人としてのDNAのなせる業ということでしょうか。福島の実家は商人の家で、若い頃は英文学を専攻し久しく貿易に携わってきましたが、晩年はやはり日本的なものに心惹かれるようになりました。友達に「俳句を教えてほしい」と頼んだ際、住まいの



▲俳句は「5・7・5の韻律で無限の世界を醸し出す」と話す千代田さん

ある江戸川区の初心者俳句講座を勧められ、以来4年。俳聖、俳人にはなれませんが俳児の少し上あたり、俳徒を俳号としました。

■昨年に続き今年も句集を制作中です？

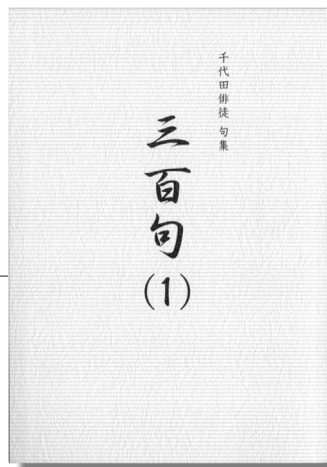
俳句は私の心の記録。大層な句を作ろうなどとは思いません。耳も遠くなり今は句会を遠慮し投句や通信制のみですが、俳句は何よりのポケ防止。「自然と枯淡」をモットーに5・7・5に季語を入れ、4コマ漫画で表現するように気楽に作っています。

句集に関して
は息子が「そういう金なら出すよ」と言ってくれたので、高めにふっかけて、でも喜怒哀楽書房さんには「極力安くしてください」って(笑)。

結局、孫にとられているから持ち出しが多いですが(笑)。毎年の記録として、簡易な自選300句集を作つていきたいですね。

■自信作はありますか

満足できるのはせいぜい1%の3、4句。今年の作品は去年の分だからダメ、いいものはありません。でも医者にまだ2、3年は大丈夫と言われたので、来年か再来年



▲1割でも快心の作があればという「三百句(1)」

にはすごいのを作りますよ(笑)。え、楽道家？いつまでも幼稚なんですね。朝から図書館や公民館に行ったり、旅行をしたり、よく知人に「いいなーやることがあって」と言われますが、金はなくともやることはいっぱいあつて忙しい。時々、自分はどうな顔をして死ぬのかなーと思うこともあります。「じゃあな」と言つて死ぬのが理想。「まだ死にたくない」でも「早く死にたい」でも「苦しい」でもなくて。

■執着しないということ

例えばお金ひとつとてみても、お金はあるに越したことはないわけですが、いっぱいあつてはおもしろくない。そこそこあつて、もっと欲しいと思うからお金。幸いにして今の私の人生がある。健康も然り、一時が万事そう。それも自然と枯淡だと思つていきます。

■これからは

勉強は好きではなかったのですが、学校は好きでした。お金がなくても言いたいことが言えて、働かなくてよくて、学生ほど贅沢なものはない。今でも時々神田や御茶ノ水の

大学に行つては、学食で食事をしてりしています。生まれ変わったら、もう一度学生になりたいですね。俳句は、立派な句碑ではなく、塔婆を残すつもりで、淡々と作っていきますよ。

句集「三百句(1)」より

松かざり光迎ふや木戸開き
初午や賑にありて手のこぼる
葉桜や榮華のあとを繕はん
初秋や日あしの動く畳の目
賑はひもそぞろに了り西の町

★話をしていると、話題が四方八方に飛び火し、それぞれにまたユニークな千代田節を展開するので、ついつい引き込まれてしまう。13年前に奥さまを亡くされたそうだが、明るく前向きで軽快。「充実した毎日で楽しいですか？」の愚問にも「そりゃそうだよ」と淀みがない。別れ際、「汚い年寄りになつたらいけないよ、それも好かれる年寄りにならないと」。まさにご自身が体現していらつしやいました。「残しておけば100年、200年したらすごい俳句だと言われるかもしれないからね」という、ぜひ、その句集のお手伝いをさせていただきます。(木戸敦子)

投稿作品

※今月も、みなさまから沢山のすばらしい作品を投稿していただきました！
今後も、みなさまの投稿をお待ちしております。
次回掲載分は11月10日(火)締切です。

俳句

- 1 斑杓け叱つてもねえ立葵
星一子(神奈川県)
- 2 告白に風も微笑む秋桜
大橋恒次(新潟県)
- 3 新涼や連れなきツアーバスの旅
有坂馨園(福島県)
- 4 炎昼や陶狸は無我の貌さらす
乾久子(滋賀県)
- 5 夏休み母の見送る一人旅
坪田勝秀(鹿児島県)
- 6 狭庭さえ名園となる良夜かな
松涛千鶴子(東京都)
- 7 海霧ふかしフェリーに流る佐渡おけさ
飯田国次郎(神奈川県)
- 8 万緑や天より降る滑り台
中森儀雄(三重県)
- 9 満々の坂東太郎に草矢打つ
吉村筑紫(埼玉県)
- 10 ロザリオの葉月九日浦上忌
佐藤茂三郎(千葉県)
- 11 一夜の火千夜に続く螢の火
野村牟人(東京都)
- 12 朝顔や一輪深きふちの色
河合ヤスエ(大阪府)
- 13 舞ふ蝶にカルガモ目追列に遅疑
佐野しづ子(愛知県)
- 14 墓の下の母をあおぐうちわ風
忍正志(兵庫県)
- 15 浴衣着やつんつるてんの異邦人
三津木俊幸(千葉県)
- 16 山清水篔を手にし奏でをり
千代田俳徒(東京都)
- 17 夏霽の霽れ屋根の上の魔除獅子
川口襄(埼玉県)
- 18 亡き人の好みの花を盆迎へ
竹本芙美子(新潟県)
- 19 日がな降る梅雨に明暗ありにけり
村山砂田男(新潟県)
- 20 のどかさは楕円形のものである
梅澤鳳舞(埼玉県)
- 21 秋思かな姥子の宿の湯の香にも
渡辺雄造(埼玉県)
- 22 遠雷や妻の帰らぬ夜の闇
大下志峰(福井県)
- 23 柔らかく身ほとり包む盆の月
井原毬子(東京都)
- 24 蜘蛛の囀にかかる木の葉のジャズダンス
山川みどり(山形県)
- 25 梅雨籠りして筆豆となりにけり
津田忠彦(岡山県)
- 26 選挙カーダチュラの花も聴いてをり
松嶋光秋(東京都)
- 27 重き口そのきき役よ茗荷花
北野耕兵(千葉県)
- 28 穏やかや白雲の浮く終戦日
福島寶徳(東京都)
- 29 貸農園オクラも咲けば向日葵も
居原田連星(大阪府)
- 30 目に見えぬ女の火花うすごろも
長峰正晴(千葉県)
- 31 原爆忌鶴折る指に増えし皺
三ツ木宗一(東京都)
- 32 訃報聞く睡蓮のみな閉じし午後
小林七重(新潟県)
- 33 秋の高下駄樹々を渡り水渡る
鈴カノン(千葉県)
- 34 ただそこに踊っていたい秋の蝶
高垣勝代(大阪府)
- 35 風の濃き洋名多しゆりの園
大場きよし(宮城県)
- 36 みちのくの大道芸や風青し
西村けい(茨城県)
- 37 愛子てふトマトの花や雨やまず
梶鴻風(北海道)
- 38 身の丈の余生楽しみ銀河澄む
堀木和子(大阪府)
- 39 カンナ燃ゆ仔馬牧場で跳ねてゐる
沢紅子(岡山県)
- 40 選挙カー祭の街に停めてあり
藤沢樹村(東京都)
- 41 亡き母を百歳の日に彼岸花
佐藤佑子(福島県)
- 42 鉢植の夾竹桃の花盛り
柳澤京子(宮城県)
- 43 この世からあの世を覗く涅槃絵図
土佐隆二郎(秋田県)
- 44 早足に歴史教師や原爆忌
斉藤慎悦(秋田県)
- 45 いささかな風を集める秋風鈴
中嶋清子(佐賀県)
- 46 言霊の声とも杜の夕かなかな
小野寺裕子(宮城県)
- 47 わが教卓袋に蛇を誰が置きし
池上秀子(高知県)
- 48 夏野菜ピカピカバリバリ力湧く
南喜美子(千葉県)
- 49 カタカナのごとく老い享け生身魂
田島星景子(宮城県)
- 50 行く雲にこころ乗せたる秋の風
佐々木元子・寿子(静岡県)
- 51 髪形をかえてみました薫風に
天水美保子(鹿児島県)
- 52 七夕や声なき人の声を聞く
寺岡文生(静岡県)
- 53 萩の宿思いがけなく花火の夜
岡弘子(埼玉県)
- 54 夕焼けの奥へ奥へと投網打つ
北村純一(神奈川県)
- 55 白み帯ぶ苺紅らみ初めむとし
木村貞恵(静岡県)
- 56 秋の声門前払ひは余震まで
浜田蛙城(静岡県)
- 57 罫雲ハードルランナー横一線
大井光隆(神奈川県)
- 58 魂を解き放つかに蓮開く
山本直子(大阪府)
- 59 日暮や枯山水に時過ぎて

- 60 生国は憲法九條蟬時雨 原田清子(神奈川県)
 61 盆踊地元音頭の高らかに 暉峻康瑞(鹿児島県)
 62 震災忌君に響けよ鎮魂曲 羽根田明(神奈川県)
 63 頭からがぶりと目刺ピアガーデン 福岡悟(東京都)
 64 驟雨なら昨日の嘘は消せる筈 湯浅芳郎(岡山県)
 65 姉見舞ひ団扇の風を貰ひけり 辻升人(東京都)
 66 鯛や余生は妻の病む月日 大阿久雅子(東京都)
 67 わが腹の傷跡見入る盆の孫 内河邦久(東京都)
 68 句に添ふる野趣な俳画の雨月かな 川崎洋吉(福岡県)
 69 醉芙蓉恋は儂いものと聞く 浦橋渴雪(兵庫県)
 70 秋近きころに澱むきこの雲 伊藤久枝(埼玉県)
 71 切りつめて凌霄二度咲き若やぎぬ 山東爺(北海道)
 72 手紙書くペンの走りや今朝の秋 栗原啓子(埼玉県)
 73 俗界を暫し仕切れる簾かな 佐藤信(神奈川県)
 74 秋晴や子の手翼にして翔ける 植野無人(兵庫県)
 75 たまゆらの夢の相寄る虹二重 野村盛明(埼玉県)
 渡辺嘉幸(東京都)
-
- 76 ほおずきやその慎ましき朱が好き 仁藤ひろじ(埼玉県)
 77 月明や逢瀬に渡る渡月橋 堀田寿美子(北海道)
 78 遍路みち吾が身由干す観音堂 神作洸江(埼玉県)
 79 その焦茶着こなせし妣吾亦紅 野原香雪(北海道)
 80 茶柱が静かに立てり今朝の秋 大久保アヤ子(東京都)
 81 南瓜は煮込んだ味母想う 五味田幸夫(栃木県)
 82 小魚と水母ばかりや地曳網 竹内ハヤ子(埼玉県)
 83 終戦の日や長たらし鍵の紐 高杉杜詩花(北海道)
 84 御日様もさらり江らす猿滑り 岩村昇(神奈川県)
 85 ヒマワリに元気もらいて朝の一步 早川述史(愛知県)
 86 追憶の折りたたみくる青田風 矢部昌子(岡山県)
 87 夜濯ぎを日課としてる両隣り 中西孝子(兵庫県)
 88 大輪の一発しだれ柳かな 春口蓮男(静岡県)
 89 ジーパンのほつれの並ぶ盆法会 大窪美代子(大阪府)
 90 星月夜山のホテルに童話集 根岸初枝(埼玉県)
 91 秋の暮れさがしに來ないかかくれんぼ 白鳥光雄(青森県)
 92 雪溪を登る先頭歩をゆるめ
-
- 93 秋の虹地震の変化の恐るべし 小山たけし(埼玉県)
 94 夏らしき夏なき今年水禍地震 矢野絹枝(東京都)
 95 凶々しく生きよ生きよと凌霄花 渡邊昭雄(東京都)
 96 梅干すや昨日の色を今日も干す 鈴木蝶次(宮城県)
 97 老へる葦ともならず晝寝する 清まさじ(静岡県)
 98 駅裏にカレーの匂ひ秋暑し 村松知津子(大阪府)
 99 天仰ぎ地を抱き込んで下駄踊り 四宮陽一(京都府)
 100 仏壇の父に酒置く終戦日 磯部力(新潟県)
 101 敗戦忌昭和の大河知り尽くし 早矢仕邦夫(愛知県)
 102 かまきりが乗っかっている台秤 能條憲夫(神奈川県)
 103 螭螂や首をかして哲学す 鈴木岑夫(千葉県)
 104 日焼子の補欠のまままで部活終ふ 高橋透(兵庫県)
 105 落蟬の残りの命震わせて 今井勝子(新潟県)
 106 農継ぐを美談となせり過疎の村 秋谷静子(茨城県)
 107 朝涼や久方にはくスニーカー 井口武重(新潟県)
 108 こほろぎや太郎花子の木造舎 尾崎頼子(岡山県)
 齊藤安弘(神奈川県)
-
- 109 だだぢや豆茹でて厨をひとり占め 本間七窪子(山形県)
 110 実紫雨の雫をこぼしけり 須田洋子(埼玉県)
 111 膝小僧出し二期のペダル踏む 神一男(静岡県)
 112 木洩日の届かぬ石碑苔の花 杉村美保子(岩手県)
 113 語り部の眼鏡の曇る広島忌 鈴木与平(宮城県)
 114 運動会そのまま駆けて空に出て 久保田耕平(埼玉県)
 115 一町を大夕立の両断す 藤田照代(岡山県)
 116 鬼やんま田の面四角に旋回す 上谷すみゑ(神奈川県)
 117 遠距離は溪に託して落し文 井上静夫(栃木県)
 118 蝸牛帰へりそびれて朝日浴ぶ 吉野成行(愛知県)
 119 俳論も持論も曲げず夏終る 伊藤梅子(岩手県)
 120 帰国して捜すわが町曼珠沙華 小林隼美(山形県)
 121 バスをまつ男が持てり吾亦紅 池本勇(大阪府)
 122 墓洗ふ一杓ごとに語りかけ 関口修一(群馬県)
 123 下町はそちこち元氣百日紅 関洋子(東京都)
 124 貧しくも幸せであれ吾亦紅 宇田川正雄(埼玉県)
 125 去り難く植田に揺るる没日かな

- 126 浜残暑 ABCDE カップ 浅野信廣(宮城県)
佐藤古城(埼玉県)
- 127 煙に乗り迎え火送り火はや三日 阿部幸子(宮城県)
- 128 蓮咲くや泥から生れし身なれども 小田眞佐代(大阪府)
- 129 真夏日に幸問いかけるゴーギャン展 富樫和子(山形県)
- 130 玉碎の学徒の遺骨還す夏 丸谷みどり(山形県)
- 131 蒲の穂のきりり総立ちち天を突く 伊藤良三(岩手県)
- 132 懸命に尻を震うて油蟬 津布久信雄(東京都)
- 133 湯巡ぐりの下駄音ふたり野分まえ 西根清(東京都)
- 134 猫追ひて水打つ女将縄のれん 岡村君枝(茨城県)
- 135 たんたんとなせりも欲もない老後 池戸喜美子(長野県)
- 136 雨が来て恋唄未練風の盆 中山日出子(大阪府)
- 137 そこに山そこに河あり敗戦日 五十嵐勝敏(新潟県)
- 138 洗い髪夜かぜにまかせ盆の月 橋本まこと(栃木県)
- 139 露草の彩移したる玉しづく 長谷部喜代子(大阪府)
- 140 天の川越えてメールの届きけり 北嶋八重(京都府)
- 141 りんりんりん九月の音のめぐり来し 石原寛(千葉県)
- 142 園丁のキセル一服鯛雲 古谷力(東京都)
- 143 水打つて夕日しずかに衰える 重原昇(新潟県)
- 144 秋ふかむ「峠」の駅の力餅 堀井和(神奈川県)
- 145 携帯電話少女の無心法師蟬 田野井一夫(栃木県)
- 146 門限のあろがなかが鉦叩 椋本望生(大阪府)
- 147 秋暑し間違ひ電話二度までも 杉浦俊雄(静岡県)
- 148 惜しむ夏木の間響く蟬しぐれ 中込茂美(山梨県)
- 149 リハビリや終えて晩夏の星仰ぐ 小林昭夫(神奈川県)
- 150 いつのまにつくつく法師虫の声 出井静枝(三重県)
- 151 蝸蛄鳴くや雨雲出し昼下り 安藤まこと(花巻市)
- 152 虹の橋突き当るまでの恋という 池田岬(埼玉県)
- 153 書に埋もれ死ぬる覚悟の震災忌 吉田ひろし(愛知県)
- 154 背ナの子の片手で真似る盆踊 廣瀬喜代子(岡山県)
- 155 母と子のテントの影絵星の声 飯田史朗(東京都)
- 156 ビードロの風鈴を泣かせるほどの風もなく 森重勉(北海道)
- 157 一人居の無言通して夕焼けて 氏江省吾(新潟県)
- 158 干梅しまうシヨパンのワルツ流れき 竹澤茂子(大阪府)
- 159 息合わず背に背切なし風の盆 久世しずか(埼玉県)
- 160 後の月砕くを惜しむ露天風呂 沢井博(群馬県)
- 161 曼珠沙華表も裏もなかりけり 野別忠孝(埼玉県)
- 162 杉林続く小暗き峡の径夏鷺の長くは鳴かず 平沼武夫(埼玉県)
- 163 起き掛けの水割り旨し旅の宿我が名「酔人」歌詠み暮す 堀井醉人(茨城県)
- 164 若きらに見守られつつ共に住み気負う事なく今日も畑打つ 野木宗信(奈良県)
- 165 越路の旅の想い出に漱石に因んだ笹飴を買う 藤原昭三(滋賀県)
- 166 マスクマスクマスクする人あふれて東京永田町おどおど歩く 佐々木都(長野県)
- 167 行列を成して現はる蟻たちに命ずる者はいずこにありや 小島秀雄(福島県)
- 168 兄上に特攻のぞむ手紙を書き破りし母をうらみし十歳 黒澤正行(福島県)
- 169 白百合の百本ほどが庭を占め香の流れきて家中咳きをり 鈴木清美(愛知県)
- 170 夕景の河ふとぶとと横たわり皆既日蝕ありししずけさ
- 171 原爆記念日の夜半の豪雨に覚めて思ふさながら犠牲者達の呪詛を聞くこと 木暮珣子(群馬県)
- 172 ホウズキみて海ホウズキ鳴らした幼き我にかえるお盆の日 大井良子(岐阜県)
- 173 さぬきでは一合蒔いたと盆踊り老いも若きもうどんを食べて 佐伯セツ子(香川県)
- 174 ふと覗く異界のきざしか波立てて梅雨の伊佐沼蛇渡りゆく 千木良宣行(埼玉県)
- 175 夏休み五泊六日で子等は来て老いも若きもにぎはふ連日 高須孝(愛知県)
- 176 一九二九蟹工船の船出かな敵味方だます日本神の国 小俣英之助(大阪府)
- 177 眠る児はよく育つとふ教えあり目瞼をひらきまた眠る孫 小暮昭司(群馬県)
- 178 千日行歩いてみるけど比叡山険しいですよその尾根道は 久保和友(滋賀県)
- 179 病棟の上階越えゆく鳥いて鳥に会うも会釈するなく 松井保(群馬県)
- 180 セロハンの中より黄に澄む枇杷を掌に乗せてしばらく見ている君は 土屋喜雄(山梨県)
- 181 夕焼けに雲燃えたぎり別天地歎喜の息吹湧きに湧くなり

182 夏祭りココシヤネルに仮装して違
う人生楽しむ友よ
山本敏順(長野県)

183 陽に杭いカンナは炎ゆる朱夏の道
たじろぎつつ我は歩めり
大橋絵代(千葉県)

184 今年またこの山路に出会ひたる姥
百合の花雨にやつれて
高橋邦子(高知県)

185 くつきりと眉引き上げし少年は勝
敗決す一球かまえる
吉田ゆき(新潟県)

186 君の髪の毛一本が地平線となる夏野
が今も我が内に在り
寒川靖子(香川県)

187 「送り人」の映画題話に住職は法
話大いに盛り立てにけり
高安春蘭(大阪府)

188 寅彦邸趾耳そばだてる「秋の歌」
チャイコフスキーと重なる随筆
今井忠一(東京都)

189 青色の服を選びて身にまとう九月
の朝のすがしき冷気に
西山悌三郎(高知県)

190 雷鳴のとどろき行きて打水の涼つ
かの間に蝉時雨かな
萬濃その子(千葉県)

191 梔子の葉に不気味なる毛虫つき蝶
になるまで妻には秘密
吉川日出男(愛知県)

192 骨太のそつとにぎる手あたたかし
今夜また寝息穏やか
椎忠夫(神奈川県)

193 古稀むかえふり返る日々けわしく
も子という宝もてる幸せ
田村淳子(新潟県)

194 水日は出穂の季節友逝きて今日も
降り続く八月の雨
岩崎令子(大阪府)

195 田螺の子また殖え五匹になったの
と孫の母からメールが届く
桑原謙一(群馬県)

196 景気よく腹の底に響く打ち上げ
花火明日は晴るらし
北村富士雄(新潟県)

川柳
武田東洋一(山梨県)

197 大切にしている友と愛
神田治(千葉県)

198 枯れ草に似た人生もまた楽し
大江秋月(兵庫県)

199 決断をドナーカードに迫られる
中嶋秀次郎(埼玉県)

200 チーン飯夫によそ嫁賢母
星野三興(新潟県)

201 学校でインド数字学習を
大川聡(新潟県)

202 絵に描いた餅でないかとマニエスト
益永克之(福岡県)

203 平和惚け遠く見ている原爆忌
羽田桐柳(群馬県)

204 政敵に弱みは見せぬ独裁者
高柳閑雲(愛知県)

205 居候年に一度は茶碗割り
百花清(埼玉県)

206 トンネルを抜けると喜哀美女の国
村瀬憲正(岡山県)

207 柔らかく包んで返す言葉しり
田澤宏(新潟県)

208 いろは坂紅葉狩りつゝまひもせず
大竹和男(新潟県)

209 夏まつりみこし男の水しぶき
近藤はつみ(福岡県)

210 ゆつくりしていきや里の温い風
小山恵美子(大阪府)

211 四年後の日本を見たく生きた欲く
青木日出男(群馬県)

212 小子化の世へ老い達の生きくらべ
佐竹観光(東京都)

213 ミンミンの鳴く暇も無く秋の雨
齋藤満子(新潟県)

214 懸命な鳴の除草に稲穂たれ
工藤昌見(山形県)

215 残り火を趣味という風燃えさせる
石原学(群馬県)

216 二人目は上の健気さひとまたぎ
奥那於子(大阪府)

217 美しき年輪ハッピーバースデー
岡本恵(茨城県)

218 なまぐさやクソが読んでも経は経
森本遊笑(兵庫県)

219 この日だけバスト全開検診日
山崎一嘉(愛媛県)

220 庇いあい励ましあつて山登る
中林恵子(大阪府)

221 窓に夕日今回の平穏ただ感謝
藤井北灯(福岡県)

心に残った作品

毎号募集しております。投稿作品で心に残ったものは？の問いに、たくさんのお返答をお寄せ頂きありがとうございます！
その中で特に多くの評価を集めた作品と、それを選んだ理由の一部をご紹介します。

70夏帽子どう被りても老女かな

村松知津子(大阪府)

・日差しを避けて横かぶりした老女の姿が目にかぶ 河合ヤスエ(大阪府)・下五の老女かなの「かな」には含みがあると思います。まだまだ洒落つ気もあるのでしょうか。三ツ木宗一(東京都)・俳諧の味があつて素直な表現も気に入った。藤沢樹村(東京都)・72才にして帽子大好きです。老女です。ハハー 佐伯セツ子(香川県)・鏡の前で楽しみながら苦悶している姿が面白い。ひよっとして謙遜!! 仁藤ひろじ(埼玉県)・作者の気持ち痛い程分ります。四宮陽一(京都府)ほか

【自句自解】

夏の吟行に帽子は欠かせません。鏡の前で少しでも格好よくと庇を上げてみたり下げたり、手鏡で

後姿を写してみたりしても今一つです。若い時は何気なく被っている皆から(素敵)(似合う)(可愛い)と賛美の声?を浴びたのに、今はデパートで求めた上等な帽子でも老いを隠し切れません。

そんな淋しいような、可笑しいような、自嘲の気持が句になり、共感して下さった方々もきつと同じ思いをなさっているのでしょう。

126 余生にも反抗期あり更衣

野木宗信(奈良県)

・静かな余生にしばしの反抗、いいですね。北野耕兵(千葉県)・人事でない気がします。天水みほ子(鹿児島県)・思春期だけの特権ではない、余生の反抗期好いですね。福岡悟(東京都)・反抗期は子供だけではない年、とつても人生いろいろ…です。中西孝子(兵庫県)・私も反抗期が出来れば幸せですが?。清まさじ(静岡県)ほか

【自句自解】

反抗期は幼少の時中学初期の二回ありますが、年を重ね自分の思う様にならないと反抗したくなります。私は八十一才で妻は他界し息子家族と五人暮しですが、私は服装について無頓着な為、妻が嫁にくれぐれも頼んで逝ったそようですが、私なりに自論を唱え頑張っています。自分ではちゃんとしているつもり、戦中

派の為(昭和三年生れ)で儉約質素を旨とし贅沢や身を飾る事は考えた事もなく、今も癖がついて余生を気楽に送っています。

27 夏草や休耕田は野にかへり

山本直子(大阪府)

・あたりまえをあたりまえに詠む高柳閑雲(愛知県)・農政のひずみでやむなく減田を強いられている農家の人々の愁がしみじみと感じられる一句。小野寺裕子(宮城県)・盛夏の鮮やかな寂寥感。千木良宣行(埼玉県)・稲作農業の現状を表現している考えさせられる作品。早川述史(愛知県)・庄内にも荒地となった休耕田ずい分増えて来た。本間七窪子(山形県)

93 草笛のかすれし音の「海行かば」

今井勝子(新潟県)

・「かすれし音」に作者の万感の思いがしのばれ思わず涙しました。堀木和子(大阪府)・「草笛の」しかもかすれが「海ゆかば」であり、戦争体験者なれば。野村盛明(埼玉県)・何年ぶりかで「海行かば」ということばを聞く、草笛のかすれた音何とも淋しいもののがあわれを感じる。石原学(群馬県)・中七がよい。草笛の音色が聞こえるよう。神田九十九(東京都)・「海行かば」を唄える人は限られた高令者の中しか居ない。草

笛とかすれた言葉で環境が分る。吉野成行(愛知県)

115 子の絵筆原色ぐいぐい夏躍る

萬濃その子(千葉県)

・ぐいぐい夏躍るに天真爛漫な姿が見える。佐野しづ子(愛知県)・「原色ぐいぐい夏躍る」に子の描く絵の迫力をよく伝えていきます。小暮昭司(群馬県)・「原色ぐいぐい夏躍る」が言い得て妙。孫の絵をみて、いつも、心躍ります。奥那於子(大阪府)・夏を存分に楽しんでいる光景が想像できる。藤田照代(岡山県)・子ども元気な姿には、元気をもらえますね。関洋子(東京都)・子供が持つ無限の躍動感があり、また季語がぴったりです。堀井和(神奈川県)

185 一万の給食造る釜光り厨房に朝の声をかけあふ

佐竹観光(東京都)

・仕事への勢いと厨房の様子までがみえるようです。佐々木都(長野県)・一万食を造る厨房の朝の意気込みが伝わってくる。野沢慶子(東京都)・仕事にとりかかる充実感を光る釜で表現した。桑原謙一(群馬県)・生きる力の美しさ息吹きが鮮やかに伝わって来ます。釜光り、の一語が見事。北村富士雄(新潟県)

201 母の背の丸さに詫びることばかり

田澤宏(新潟県)

・今年に母が亡くなってもつといる話を聞いておきたかったと思いましたが。梅澤鳳舞(埼玉県)・老いて行く姿が良く出て居ると思う。近藤はつみ(福岡県)・何時の間に老いた母を思つてこれから親孝行しなければと思う。大久保アヤ子(東京都)・亡母を思い出しジーンときました。中林恵子(大阪府)

◎その他にも、こんな句・歌が挙げられています。

2 鯉の口喉まで見せて梅雨に入る

松嶋光秋(東京都)

7 焼茄子や朝も夕も向き合ふて

長谷川ふさを(新潟県)

16 前向きに歩くほかなし羽抜鶏

吉村筑紫(埼玉県)

43 合歓咲きて術後の妻の寝息かな

坪田勝秀(鹿児島県)

150 端居して脚の我がまま許しけり

椋本望生(大阪府)

※今後もふるって投稿をお願いいたします!なお、作品は原稿通りに掲載いたします。楷書にてはつきりとお書きいただくとともに、誤字脱字等くれぐれもご注意ください。

Q. 毎年欠かさず行っている、お祝い事・記念日といえば何？

今回もたくさんのご回答ありがとうございました！やはり、毎年の大会は外せないもの。お誕生日もしかり、ですね。

夕日俳句大会(大橋恒次 新潟県)／家族旅行(娘の嫁ぎ先家族の招待)(有坂馨園 福島県)／結婚記念日(平沼武夫 埼玉県)／今の所、孫の誕生日！(堀井酔人 茨城県)／孫の誕生日(坪田勝秀 鹿児島県)／お盆、バースデー、母の日(松涛千鶴子 東京都)／野木兄弟会7名一月十五日(野木宗信 奈良県)／曾孫の誕生日(大江秋月 兵庫県)／敗戦日(吉村筑紫 埼玉県)／記念日、数少ない心の友の忌日(佐藤茂三郎 千葉県)／入植記念日(黒澤正行 福島県)／春夏の祭り家族の誕生日祝、ダイヤ婚(鈴木清美 愛知県)／ここ当分は孫の誕生日(竹内進 愛知県)／正月の祝い事だけです(佐野しづ子 愛知県)／御社の創立祝を失念。失礼でした(千代田俳徒 東京都)／子供たちの誕生日とクリスマスは子供と一緒に楽しみます(若月理依子 新潟県)／子の誕生日(星野三興 新潟県)／細木数子さんの「六星占術」の本の発売日に購入(大川聡 新潟県)／墓参(村山砂田男 新潟県)／盆、正月の神

社へのおまいり(北岡晃 兵庫県)／二十年間三十年間特に記念日というものはやっておりません(梅澤鳳舞 埼玉県)／「盆」夏越しと冬の大祓(津田忠彦 岡山県)／赤鳥会のクリスマスパーティー(松嶋光秋 東京都)／孫の誕生日、毎年やっています(羽田桐柳 群馬県)／「新年おめでとう句会」です。来年は豊橋番傘創立35周年大会(高柳閑雲 愛知県)／初詣、初湯(北野耕兵 千葉県)／家族の誕生日祝(木暮一子 群馬県)／定年後、平成六年から毎年元年に名所旧蹟に初詣を実行。单身吟行だが、俳句や写真が副産物として収穫豊富(居原田連星 大阪府)／自身の誕生日一人でも必ず今の自分に乾杯する(長峰正晴 千葉県)／八月の末(月遅れ盆の後)家族で少々贅沢をして、三泊の国内旅行(三ツ木宗一 東京都)／誕生日(鈴カノン 千葉県)／各自のバースデー。寄せ植えを春と秋、3月9月に作成(大井良子 岐阜県)／家内7月31日と私8月1日(曾津八一先生と同じ)の誕生日(相馬竹浪 新潟県)／八

月十五日の正午の黙祷(百花清 埼玉県)／結婚記念日。あと何回迎えることが出来ることやら：(西村けい 茨城県)／盆会、家族が全員揃って祖先に感謝できる日(梶鴻風 北海道)／両親の誕生日と命日、結婚記念日、夫婦の誕生日(佐藤佑子 福島県)／毎日がお祝い、記念日です(稲葉民雄 千葉県)／お祝い事↓誕生日。記念日↓上梓、結婚(柳澤京子 宮城県)／結婚記念日(土佐隆二郎 秋田県)／誕生日、結婚記念日(中嶋清子 佐賀県)／家族それぞれの誕生日、祝い(小野寺裕子 宮城県)／お正月。誕生日(南喜美子 千葉県)／大地の芸術祭(天水美保子 鹿児島県)／一月三十日 開拓入植記念日(定例行事)(寺岡文生 静岡県)／正月二日、息子達が集まり食事を一緒に：(一年一回だけの親子の日、三人独身!!)(岡弘子 埼玉県)／家族の誕生日、年始行事(北村純一 神奈川県)／終戦(敗戦)記念日(村瀬憲正 岡山県)／正月三ヶ日、盆行事、子、孫などの祝いごとを大切にしています(高須孝

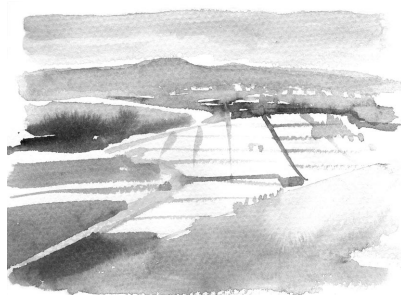
愛知県)／夕日記念大会(浜田蛙城 静岡県)／誕生日(山本直子 大阪府)／正月の三社まいり孫の成長が楽しみ(近藤はつみ 福岡県)／昔から家族の誕生日をかかさずやっておりましてが今は一人になり決まった行事は特になく淋しいことです(原田清子 神奈川県)／お正月(元旦)、誕生日(特に孫)結婚記念日など(記念の川柳大会もよくあります。)(小山恵美子 大阪府)／母が僕を生んで呉れた日(小俣英之助 大阪府)／二人の子供の誕生日 兄の方五十六才、弟の方五十歳(青木日出男 群馬県)／誕生月シヨッピング(羽根田明 神奈川県)／大学同窓会(何故か人減るので)(湯浅芳郎 岡山県)／3月23日妻の誕生日、6月12日結婚記念日、妻に感謝の意を込めて(辻升人 東京都)／新年会(親族)(大阿久雅子 東京都)／誕生日、結婚記念日など(石田福子 静岡県)／妻の誕生日、クリスマス前夜(孫との交流)は欠かせません(浦橋克行 兵庫県)／自分の誕生日祝い(小暮昭司 群馬県)

／会社創立記念日の4月1日。父が作ったのは昭和30年(久保和友 滋賀県)／創立記念日(栗原啓子 埼玉県)／お盆は新暦。妹達がやってきます(佐藤信 神奈川県)／播州三大祭の北条の節句祭(植野無人 兵庫県)／夕日俳句大賞ですか(野村盛明 埼玉県)／家族的には六人の各誕生日、個人的には5月18日結婚記念日、俳句では8月19日俳句記念日(仁藤ひろじ 埼玉県)／家族の誕生日(山本敏順 長野県)／結婚記念日(11・23 61回目)(昨年ダイヤモンド婚)(野原香雪 北海道)／弊社創立の毎年(大久保アヤ子 東京都)／初もうで(五味田幸夫 栃木県)／二人の孫の誕生日祝い(高杉杜詩花 北海道)／元日の初詣(氏神様)(野沢慶子 東京都)／家族の誕生日(岡田美智子 東京都)／子供、孫達との絆と成長を願ってのボウリング大会(早川述史 愛知県)／家族ひとりひとりのお誕生日(大橋絵代 千葉県)／四季折々のまつりごと(中西孝子 兵庫県)／母の日、誕生日、子供達がやってくる(大窪美代子 大阪府)／家族の誕生日、正月、結婚(根岸初枝 埼玉県)／私の誕生日を毎年記

念日にしています(小山たけし 埼玉県)／正月料理位でしょうか?特になし(渡邊昭雄 東京都)／家族の誕生日(村松知津子 大阪府)／愚息の誕生日会(四宮陽一 京都府)／六周年、お目出とうございます。増々の発展を!!家族の誕生日がやっとなす(奥那於子 大阪府)／家族の誕生日(早矢仕邦夫 愛知県)／そう問われてみて何もなかったに気付きました(今井勝子 新潟県)／孫の誕生会(秋谷静子 茨城県)／家族の誕生日祝(井口武重 新潟県)／終戦記念日、お正月(尾崎頼子 岡山県)／結婚記念日(齊藤安弘 神奈川県)／家族の誕生日を祝うことです(神一男 静岡県)／正月の七福神巡り(久保田耕平 埼玉県)／結婚記念日 孫の誕生日(藤田照代 岡山県)／創立6周年おめでとうございます!(岡本恵 茨城県)／お正月、お花見お祭、クリスマス(高安春蘭 大阪府)／誕生日(上谷すみゑ 神奈川県)／下野羽黒山の初詣井上静夫 栃木県)／矢張り年の始めの新年ですね。午後から子供や孫たちが集まっています(吉野成行 愛知県)／盛岡さんさ、花火大会(伊藤梅子 岩

手県)／誕生日ぐらいでしょうか(池本勇 大阪府)／猫の誕生日(誕生日がはつきりしている猫なので。)(関洋子 東京都)／創立記念日(宇田川正雄 埼玉県)／結婚記念日(浅野信廣 宮城県)／子育て時代の夏は海、冬はスキーの家族一泊旅行。今は子や孫が、母の日、父の日、夫々の誕生日祝いをしてくれます(佐藤古城 埼玉県)／誕生日(阿部幸子 宮城県)／年末に手作り御節料理を実家の分と二家分作りお正月を祝う事(小田眞佐代 大阪府)／ピアノを習い始めてからクリスマスコンサート(富樫和子 山形県)／新年の行事。夫と私のそれぞれの誕生日祝い(会食)(萬濃その子 千葉県)／家族の誕生日、結婚記念日(中林恵子 大阪府)／結婚記念日(西根清 東京都)／主人・孫の誕生日祝(西根チエ子 東京都)／敬老会(岡村君枝 茨城県)／お盆II墓まいり(池戸喜美子 長野県)／同じ誕生日の友人達と食事会に行きます(中山日出子 大阪府)／護国神社(終戦記念日)(五十嵐勝敏 新潟県)／家族の誕生日(北嶋八重 京都府)／創立記念日(石原寛 千葉県)／結婚記念日(古谷力

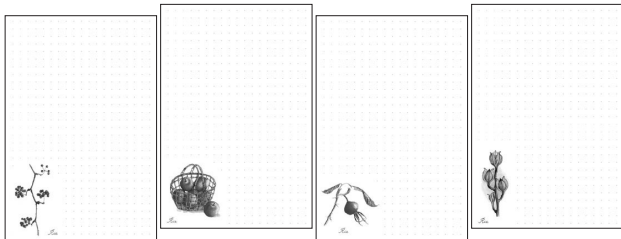
東京都)／結婚記念日(夫婦で外食・もう少しづきそうです)(堀井和 神奈川県)／お正月。十五夜。氏神様祭(田野井一夫 栃木県)／感謝イベント(杉浦俊雄 静岡県)／子供達のパーティー(中込茂美 山梨県)／誕生日、結婚記念日、開戦の日、終戦の日など(小林昭夫 神奈川県)／自身の誕生日祝を…。家族と一緒に海外旅行に友人と(岩崎令子 大阪府)／年末年始の祝い、嫁、孫と集まって(北村富士雄 新潟県)／結婚記念日、家族の誕生日、店の創立記念日(池田岬 埼玉県)／秋の収穫祭(森重勉 北海道)／父の復員記念日(竹澤茂子 大阪府)／家族の誕生日(久世しずか 埼玉県)／草枕俳句大会、夕日俳句大賞(野別忠孝 埼玉県)



オリジナルポストカード「冬シリーズ」が完成!

8月号でお知らせした「秋シリーズ」には、沢山のお申込みをいただき誠にありがとうございました。好評につき、第2弾として「冬シリーズ」を発売します。今回の喜怒哀楽10月号にも「ローズヒップ」のポストカード1枚を同封しましたので、お試しください。お気に召されましたら、同封のアンケート用紙に希望セット数をご記入のうえ、**金額分の切手を同封のうえ封書にて**お申し込みください(1セット8枚入り500円)。秋、冬シリーズのいずれもご用意しております。季節を先取りして、ご無沙汰のあの方に一筆したためてみませんか。

冬シリーズ/ウバユリの実、リンゴ、ローズヒップ、サルトリイバラ、イチイ、スノードロップ、シクラメン、雪景色



催物案内

小林一茶 183 回忌全国俳句大会

一茶の命日11月19日(木)、一茶を偲び法要・俳句大会・そば会などが催されます。

日時/11月19日(木)8:30～

会場/一茶記念館(長野県上水内郡信濃町柏原 2437-2)

時間/8:30～10:00 受付・席題発表

9:00～9:50 法要(明専寺)

10:20～11:20 記念講演 俳人「遠嶺」主宰 小澤克己氏

11:30 席題締切

11:00～13:00 新そば会(地元産の手打ち霧下そば)

13:00～15:30 全国俳句大会表彰式

席題入選句の発表と表彰

雪深い12月～4月4日は冬期休館となる一茶記念館。冬の訪れの前に一茶の心に触れに行きませんか。

■詳細は下記委員会事務局まで

〒389-1305 長野県上水内郡信濃町柏原 2437-2

一茶記念館 一茶忌全国俳句大会実行委員会事務局

TEL(026)255-3741 FAX(026)255-5505

第13回 日本自費出版文化賞 開催!

今年も「第13回 日本自費出版文化賞」の作品の応募がはじまりました。

「日本自費出版文化賞」は、自費出版ホームページによる自費出版データの蓄積・公開活動と連動しながら、自費出版に光を当て、著者の功績を讃え、かつ自費出版に再評価、活性化を促進しようとするものです。

募集期間/2009年10月1日～2010年3月31日(当日消印有効)

■詳細、お問い合わせは下記まで。

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 ニッケイビル 7F

(社)日本グラフィックサービス工業会内 NPO 法人 日本自費出版ネットワーク

日本自費出版文化賞事務局

TEL 03-5623-5411 FAX 03-5623-5473 <http://www.jsjapan.net/index.html>



Q. 毎年欠かさず行っている、お祝い事・記念日といえば何?

木戸 敦子



結婚記念日♡と言いたいところだが、式場からもらった1年ずつの目盛りキャンドルに健気に点火して祝ったのは3年目まで。ま、燃え尽きるよりいい。停電の時にでも使おう。

古川 久美子



家族・友人などのお誕生日、クリスマスなどの年中行事はなんとなく……。今年はハロウィンが一大イベントです★

菅 真理子



家族の誕生日会。といってもケーキを食べて写真を撮るのみですが…やっぱり皆で祝えることのありがたさ。友人の誕生日会はサプライズを目標しますが、よく失敗します☆

仲由 真実



大晦日と元日のお祝い? 家族全員が祖母の家に集まります。普段は全員が集まって長い時間を過ごすことが少ない家族なので、毎年必ずこういう機会があることで家族なんだなあと感じます。

上村 真智子



夏の家族旅行。ここ何年か笹川流れの碁石海岸で泳ぎ、岩牡蠣を食べます。お正月のお祝いには鱈の白子鍋。ちなみに結婚式のキャンドルはこの昔に捨てました。

金子 ゆり子



結婚記念日と誕生日には花束やネックレスと当り前のように思ってたんですけど、でもこの二年前頃から無し。他の人はないと思うので今までありがとう。

石山 由希子



お盆とお正月に親族が集まって談笑。節分、桃・端午の節句と子供達は誕生日とクリスマス。秋恒例の親族温泉旅行は、中一の姪が部活で多忙でお流れ? また来年。本当一年ってあつという間。

山田 千秋



「忘れてた前日まで覚えてたけど」結婚記念日での主人の冷たい発言。悔しいから「私も忘れてた〜。」といい涙がポロリ…。その年以来、私だけプレゼントをいただけるようになりましたとさ(*^^*)

吉田 瞳



息子の誕生日、クリスマス、お正月、節分などです。節分は、実家にある骨董品級の鬼の面を父が冠り「わるい子はいねかー!」と叫び暴れる。そんな鬼に落花生をまく。秋田のなまはげになるのはなぜ?

7回目の今回は、前回の小高正子さまからバトンを託された三ツ木宗一さま。自分の土地を愛する心持ち、こちらまで幸せな気持ちになります。

飛鳥山のこと 三ツ木宗一

都内屈指の桜の名勝「飛鳥山」に就きまして些かご案内申し上げたく思います。

標高わずか二十五メートル、港区の愛宕山より更に低い飛鳥山ですがJR王子駅の中央口を出ると直ぐ左手に山上までのモノレールが設えられました(無料)。今年の桜の旺季には間に合わず、この七月に開通したばかりです。

モノレールで上り、下りたつた辺りは飛鳥山公園内の小高い丘です。

かつて地主山を謂われ、享保年間、今からざつと二百七、八十年前には徳川八代將軍吉宗の御立台が設えられた所です。

その吉宗の台命で「享保五年翌六年に桜の苗千二百七十本が植えられた」と国立公文書館に保存されている古文書に見られます。

現在園内に八百五十本程の桜がありますが、その七割近くが「ソメイヨシノ」です。

此処の西側にはかつて東京第二陸軍造兵廠、東側には火薬廠、そして二キロほど先の赤羽には陸軍第一師団があつたのです。

敗戦色の濃くなった昭和二十年の春先からは多大な戦禍を浴びました。

戦後の落着きを取り戻し、昭和三十九年の東京五輪も無事に終り都民の生活にも漸くゆとりが見

られる様になってから北区公園課で本腰を入れての整備、植樹ですから此の二、三十年間がソメイヨシノの最盛期かと思えます。

園内の南東の一隅は子供遊園、蒸気機関車や古い都電も置かれ子供達の格好な遊び道具の一つに加えられております。

公園自体が武蔵野台地の一部です。従つて起伏に富みそれが上手に使われております。

子供遊園の東側、即ち王子駅へと続く坂は「飛鳥の小径」と名付けられ、此処は近年紫陽花が見事な所として新聞やテレビでもその季節に紹介される様になりました。

子供遊園の前には幅広い石段があり二十段ほど下ると均らされた広場となります。

自然石を積みあげた中を小流が流れ、夏休みに子供達が跣でバチャバチャと飛び廻つております。

此の広場では毎年五月に植木市が開かれ、また各種のイベントも開かれます。

北側の一隅に二十畳ほどの石造りの舞台があり、この四月には 沖縄の民族舞踏のグループが二日間わたり熱演されておりました。

広場から見上げると必ず目につく時計台があります。時計台を少し北へ向つた所に、「飛鳥山の碑」があります。江戸城から飛鳥山まで凡そ二里、約八キロの道のりです。五頭の牛と三百の匹夫とで引上げたという石碑ですがそれよりも難解な碑文として江戸時代から名を成した碑です。更にその横三十メートル程離れた所には幕末の松代藩士、佐久間象山の「櫻賊の碑」があります。ともに石碑なので戦禍の類焼を免れたのでしょう。

園内の南西に「飛鳥山博物館」「紙の博物館」「澁澤榮一記念館」此の三館がそれぞれ独立した形で出来たのは十年ほど前ですが「紙の博物館」は以前駅の東側にありました。

その跡地に「洋紙発祥の碑」があります。王子は洋紙発祥の地でもあります。

現、王子製紙も澁澤榮一に依つて創設されたのですが、当初の資本金は十五万円だったとのこと。此の百年の間の物価の移り変りに今更ながら啞然と致します。

その澁澤榮一が、「澁澤記念館」の辺りに居を構えたのが明治十三年。そして飛鳥山の麓を汽車が走り出したのは明治十六年です。

蒸気機関車には煤煙と轟音がつきものです。その三年間の世の移りを榮一はどう感じたでしょう。

澁澤邸のあつた一隅に和洋折衷した茶室があります。「晚香炉」と名付けられたこの茶室、現、清水建設の二代目社主清水喜助からの贈与です。現在ならさしづめ大きな贈収賄の疑念を持たれて週刊誌の格好の餌食にされた、と思うのですが…。

博物館の前を飛鳥の小径へ向う両側には、関山、福祿寺、御衣黄、鬱金、麒麟等々の八重桜がソメイヨシノが散り果てた後で三十数本、重たげな夕風にゆれるのもまた特別な風情です。

紙の博物館前には大きめなプランターがあり三椏が可憐な花をつけ、それから躑躅、そして先ほど述べた紫陽花。

王子を住処としている私、我田引水の誇りを受けそうなのでこれで失礼致します。

新潟ぶらり

＊燕喜館



新潟市の白山公園内に、新潟市の歴史的建造物「燕喜館」があります。旧き良きという感じの、趣のある邸宅です。無料で見学できる他、音楽やお茶会などのイベントが催されて市民に愛されています。明治期の大商家、斎藤家の邸宅を移築再建したもので、登録文化財にも指定されています。周辺の白山公園を散策しながら、ぜひ一度中に入つて楽しみたいスポットです。

館内はしつとりとした雰囲気、各部屋に散りばめられた装飾などを自由に見てまわれます。白山公園の蓮池も眺められ、庭に面した縁側にゆっくり腰をおろして景色を楽しむご婦人方や若者も見られます。何回か行つても同じ感じがしないのは、玄関前や庭で育つ植物たちが季節ごとに違う表情を見せてくれているからかもしれません。各部屋は茶道や俳句などの伝統文化

活動に有料で貸し出しもされています。また現在は新潟市で開催されている「水と土の芸術祭」との共演で、アート作品も展示され、いつもと少し違う雰囲気を楽しめます。

そんな燕喜館でこのほど、恒例の「越の花飾り」というイベントが開催されます。地元新潟の花を使った、大小さまざまな創作花飾りで館内が活気づきます。期間中、音楽会や呈茶会、キッズ花育・花遊び体験も開催されます。家族連れやご夫婦で訪れる方、カメラを持つて熱心に撮影をされる方など、さまざまな方が訪れます。それぞれに



作品を見て、感想を言いあつたりしながら楽しめます。今年は何んな作品と出合えるか楽しみです。

(仲由真実)

【燕喜館イベント情報】 第4回 越の花飾り

11月1日(日)～11月3日(火)
時間／午前10時～午後5時

(※最終日は午後4時まで)

会場・問合せ先／燕喜館

電話／025・224・6081

＊考古堂書店



新潟の中心部、古町通にある考古堂書店。主に医学の専門書を取り扱っているこの書店の創業は1911年で、あと2年で百年を迎えることになる。新潟大学医学部が近く、昔はお金のない学生のために高い医学書の古本を手配していたといい、それがそもその始まりだったという。医学に全く知識がない私、どんな本があるのかと珍しさからかれて店内をしばしうろろ。



医学書とならぶこの書店の特長が良寛さまである。

現会長である柳本氏は、新潟良寛会の代表であり、良寛に関する書籍も自ら企画・編集・販売されるという。もちろん店内には良寛コーナーがある。県外客もいらつしやるとのこと。この書店の壁には良寛さまのモザイク画があり、名物的存在である。この壁画でこの書

店を覚えている人も多い(と思う)。古町に來られた際はぜひご覧いただきたいところ。

●本を買ったときにいただきたいしおり。裏を見ると、新潟県出身の医学者である平澤興氏の書であることが記されている。以後裏面抜粋。

「一を以て之を貫く」一つの道を貫くことの尊さ、重さを教えてくれる。

平澤興先生は明治33年新潟県味方村に生まれ、京都大学医学部を卒業、新潟医科大学教授を経て、昭和32年京都大学総長までつとめられた。この書は考古堂創業記念に寄せて揮毫していただいたものである。



●「良寛さまオリジナルしおり」(税込525円)

も販売されている。これは洋食器の産地として有名な新潟県燕市の山崎金属工業株式会社にて製造された、ステンレス製のしおり。「天上大風」のほか「敬上憐下」など5種類がある。

(菅真理子)

株式会社考古堂書店

住／新潟市中央区古町通4番町

563番地

☎／025・229・4050(代表)

営／平日9時30分～18時30分

日曜・祭日10時～18時

休／12月31日～1月3日



詠み人の『リレーエッセイ』

北京

ひはら つたえ
日原 傳

一九八六年の秋から二年間、北京に住んでいたことがある。日本の大学院の博士課程を休学し、北京大学の中文系に留学していたのである。現在の北京は環状道路が幾重にも張り巡らされ、走る自動車の数も圧倒的に増えて、近代都市の相貌を顕わにしているが、当時の北京はトロリー・バスか自転車が主な交通手段で、街を歩いていても人々のなまの生活を実感させる光景に出会うことが多かった。

馬車の鞭はげしき凍ての大路なり

『重華』

北京大学近くの十字路で見た情景。後続の車に追い立てられ、いかにも重そうな鉄板の荷を喘ぎつつ引く馬の姿が今も目に浮かぶ。道ですれ違う自転車の荷台には、よく生きたままの家鴨や鶏が首を並べて括られていた。自由市場に運び込んで売られるのである。夕刻のバスの中で夕食の材料と思われる生きた鳩を後ろ手にする婦人を見たこともあった。

琉璃廠の古書肆の窓に虫の籠

『此君』

琉璃廠は北京の宣武区にある通りの名。書店や書画、骨董を扱う店が連なる。書店の棚に並ぶ本は古典文学、思想、歴史といったジャンルが充実している。近年、北京のあちこちに「書城」と称する巨大な書店が出現しているが、混雑を避けてじっくり本を選ぶには昔ながらの琉璃廠の書店の方が好ましい。また、琉璃廠の辺りには古い胡同が比較的残っており、散歩しながら昔の北京の雰囲気を楽しむもある。

胡同ゆく華奢商ひも小春かな

『江湖』

訪れたことのない異国の地でも、居ながらにして、眼前にその景や息遣いを感じとることのできる至福。「線装本の帙」とは、和本を包んで保存する装具のことなのです。豊かな奥深い世界を感じます。

待宵や胡同に飯の支度して

『此君』

滅びゆく胡同と鉢の鶏頭よ

『此君』

胡同とは北京特有の路地の名称で、中国語では「フートン」と発音する。もともとモンゴル語で路地を意味する語を音訳したものらしい。

線装本の帙を作ってくれる老人が琉璃廠近くの胡同に住んでいることを留学生仲間から教えられ、通ったことも思い出される。胡同の奥まった所の住まいは、北京の伝統的な住宅形式である「四合院」を複数の家族で分割して住んでいるものと見受けられた。持参した本を預けると、まずおおまかに寸法を測り、出来上がる期日と値段を教えてください。それをまた取りに行く訳である。丁寧な作ってもらった紺色の帙は本とともに今も手元にある。

昨年の秋に北京を訪れた時は、街中に宿が取れたので、旧内城区の散策を夜も楽しんだ。そして次のような七絶を得た。題は「燕京秋夜」。

- 月照燕京城裡秋 月は照らす 燕京城裡の秋
- 胡同檐瓦冷光浮 胡同の檐瓦に冷光浮かぶ
- 買人掲燭煎新栗 買人は燭を掲げて新栗を煎る
- 行雁一声湖水頭 行雁一声 湖水の頭

「燕京」は北京の古称。「檐瓦」は、のきがわら。「買人」は商人。北京の中心部には「北海」「前海」「后海」といった大きな湖がある。

お・友・達・紹・介・キ・ャ・ン・ペー・ン・第・30・回・当・選・者・発・表

【当選者】 佐々木都さま、村上重利さま、星一子さま、井口武重さま、高柳閑雲さまの5名です。

当選された方には、9月下旬に賞品の発送をさせていただきます。

※誠に勝手ながら紹介特典の発送は、今回30回をもって終了させていただきます。

2009. 10. vol.46 (2009年10月10日発行/隔月発行)
●発行・印刷/株式会社ミューズ・コーポレーション
〒950-0801 新潟市東区津島屋 7-17
TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550
TEL 0120-819-395
e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com

編集後記

最近、その土地ならではの食や文化を紹介するTV番組がある。なにげなく目にとると、浜松でしか食べられないお好み焼きが東京に進出! ということで、浜松出身者が8割いる会社でそれを食べてもらう画面に遭遇した。蓋を開けた瞬間に上がる歓声と満面の笑顔。夢中で食べながらも口ぐちに、その食べ物にまつわる思い出が話される。郷愁の宝庫と化したソウルフードを目の前に、心は一瞬にして少年のあの日、あの時に戻る。お父さん達、上京以来、大変なことも多かったろうね。不意にこんなことでうっすら目が潤む。歳をとったな～とは思わず、感受性が豊かになったね～私と思うことにする。(木戸敦子)